

胸膜癒着療法の効果および副反応の比較に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2022年 11月 2日 ～ 2024年 3月 31日

〔研究課題〕 術後気漏に対するピンバニールとユニタルクを用いた胸膜癒着療法の効果と副反応の検討

〔研究目的〕

気漏とは肺および気管支からの空気漏れのことです。術後気漏は肺手術の術後早期に発生しやすい合併症の一つです。大半は1週間程度で自然に解決するのですが、解決困難な場合には胸膜癒着療法が行われます。胸膜癒着療法は胸腔ドレーンから様々な薬剤を用いて炎症を誘発することで空気漏れを止める方法です。さまざまな薬剤が使用されていますが、どのような患者さんにどの治療が適切なのかわかりしていません。そこで、これまでの胸膜癒着療法実施症例を解析することで、適切な薬剤選択の方法を明らかにすることを目的とします。

〔研究意義〕 この研究により、術後気漏に対する適切な治療方法を提供することができるようになります。

〔対象・研究方法〕 2016年1月から2022年9月の間に、帝京大学医学部附属病院・呼吸器外科で手術を受け、術後気漏に対して胸膜癒着療法を行った患者さんを対象としています。電子カルテシステムより治療前後の血液検査データや治療内容に関するデータ、治療効果に関するデータを収集します。収集した臨床情報を研究に使用します。

〔研究機関名〕 帝京大学医学部附属病院

〔個人情報の取り扱い〕

本研究ではデータを収集させていただく時点で氏名と診療番号は用いず、決して個人を特定できないような研究番号へと加工します。この研究成果を発表する学会や論文では、研究全体の集計値として公表するため、個人を特定されることはありません。また研究終了後には帝京大学臨床研究センターにて10年間保管した上で、情報漏えい対策を十分に施して廃棄します。

対象となる患者さんで、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者：氏名 山内良兼 講師

研究分担者：氏名 坂尾幸則 教授、齋藤雄一 准教授、渡邊智博 大学院生

所属：医学部 外科学講座

住所：東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表)